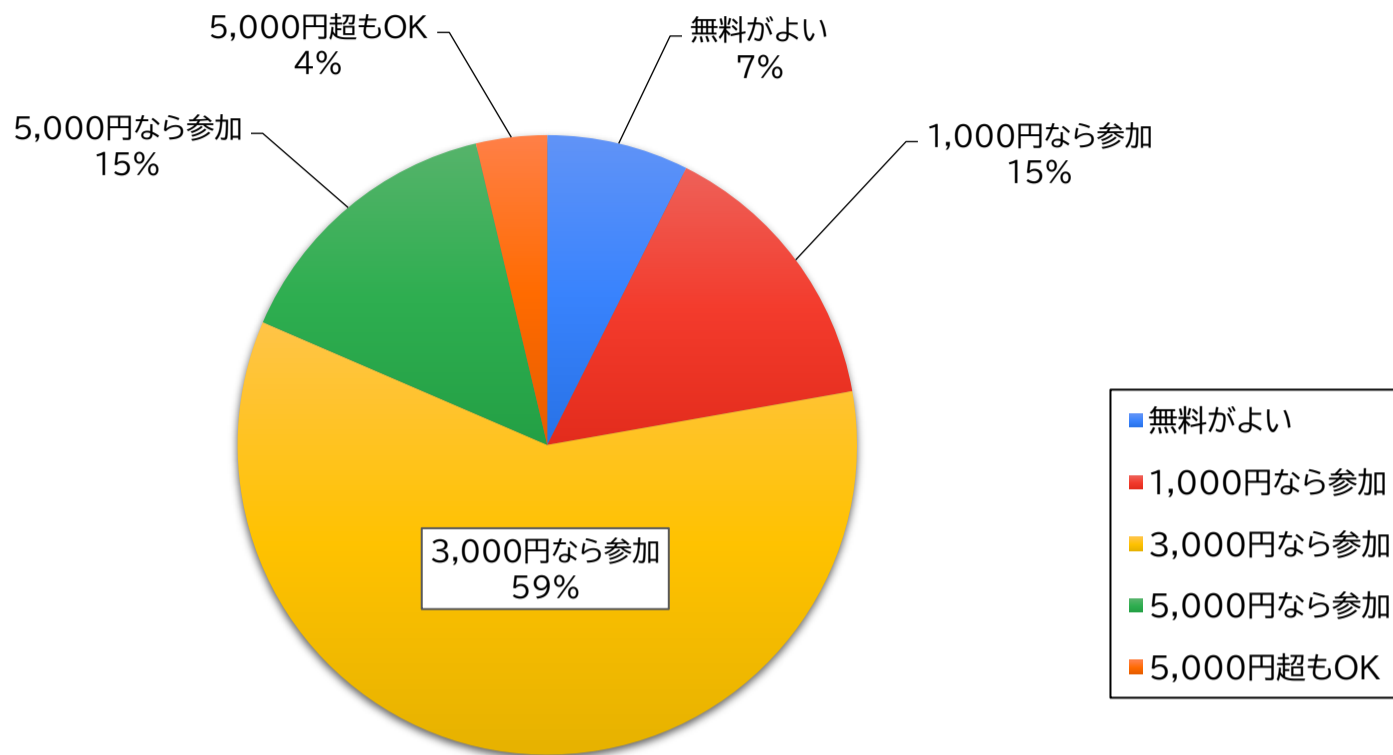


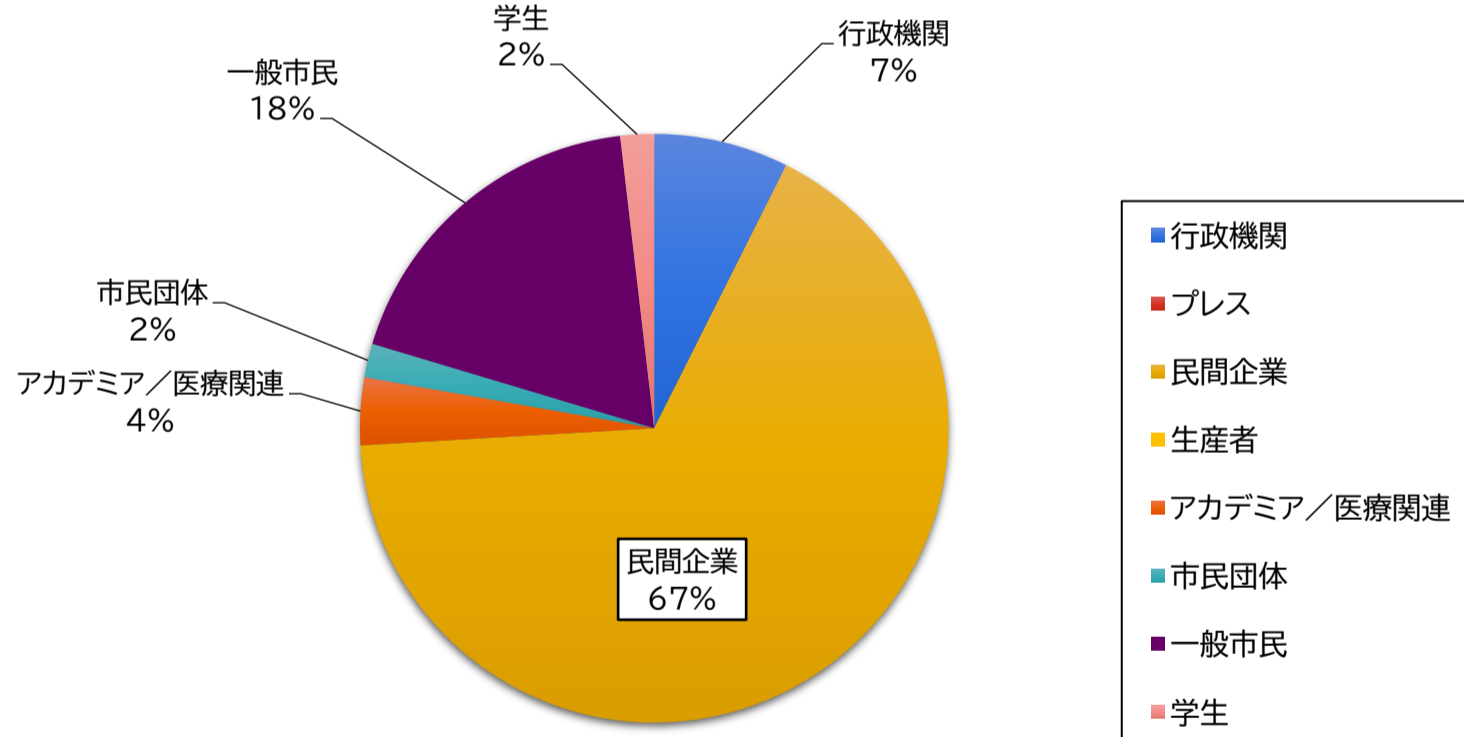
【開催日】2024年2月12日(月・祝)13:00~17:00  
【開催場所】東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール+オンライン開催(Zoom)

アンケート回収数54枚(参加者:126名、演者6名を除いた回収率:45%)

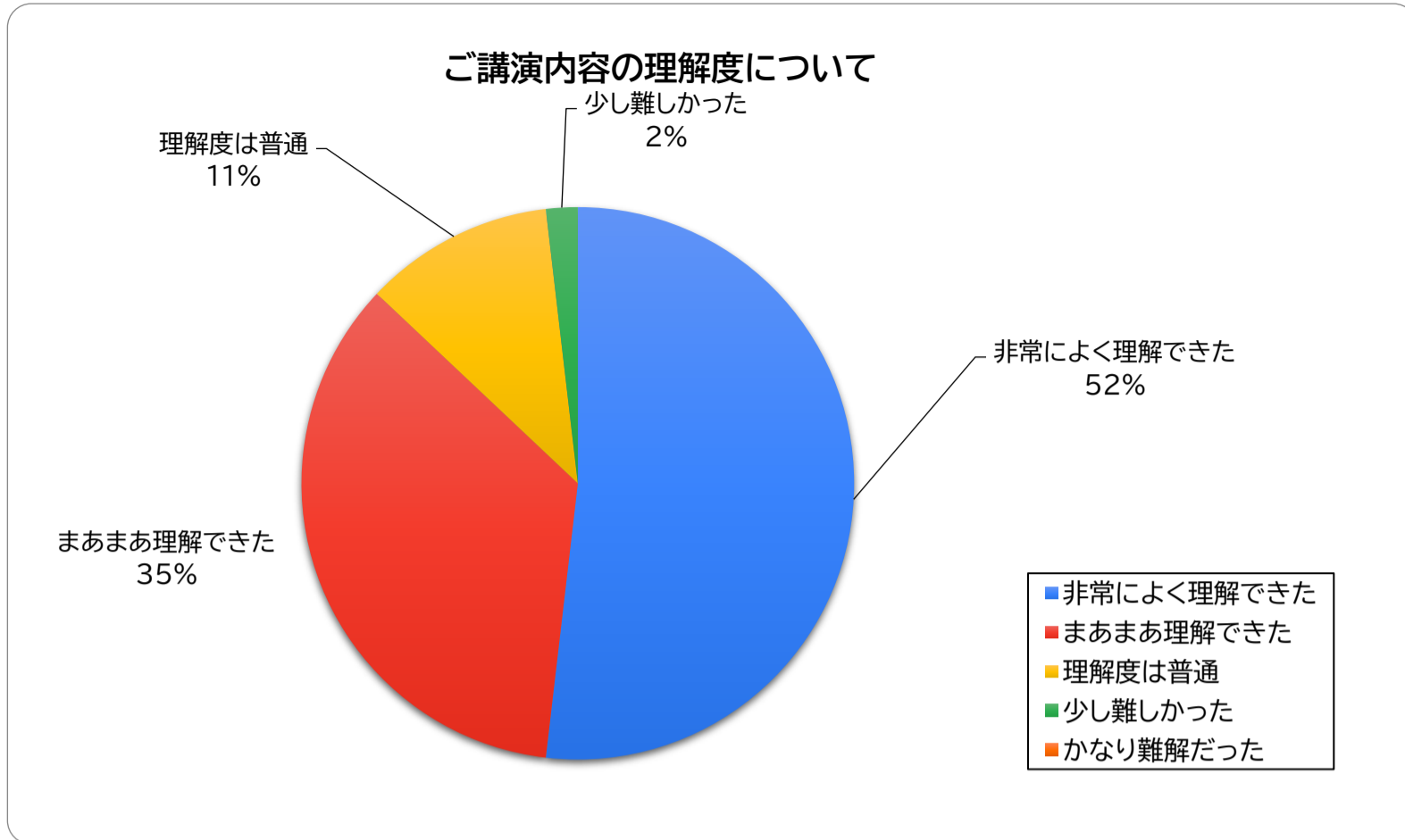
### 参加費(NPOへの賛助)について



### 参加者のご職業について



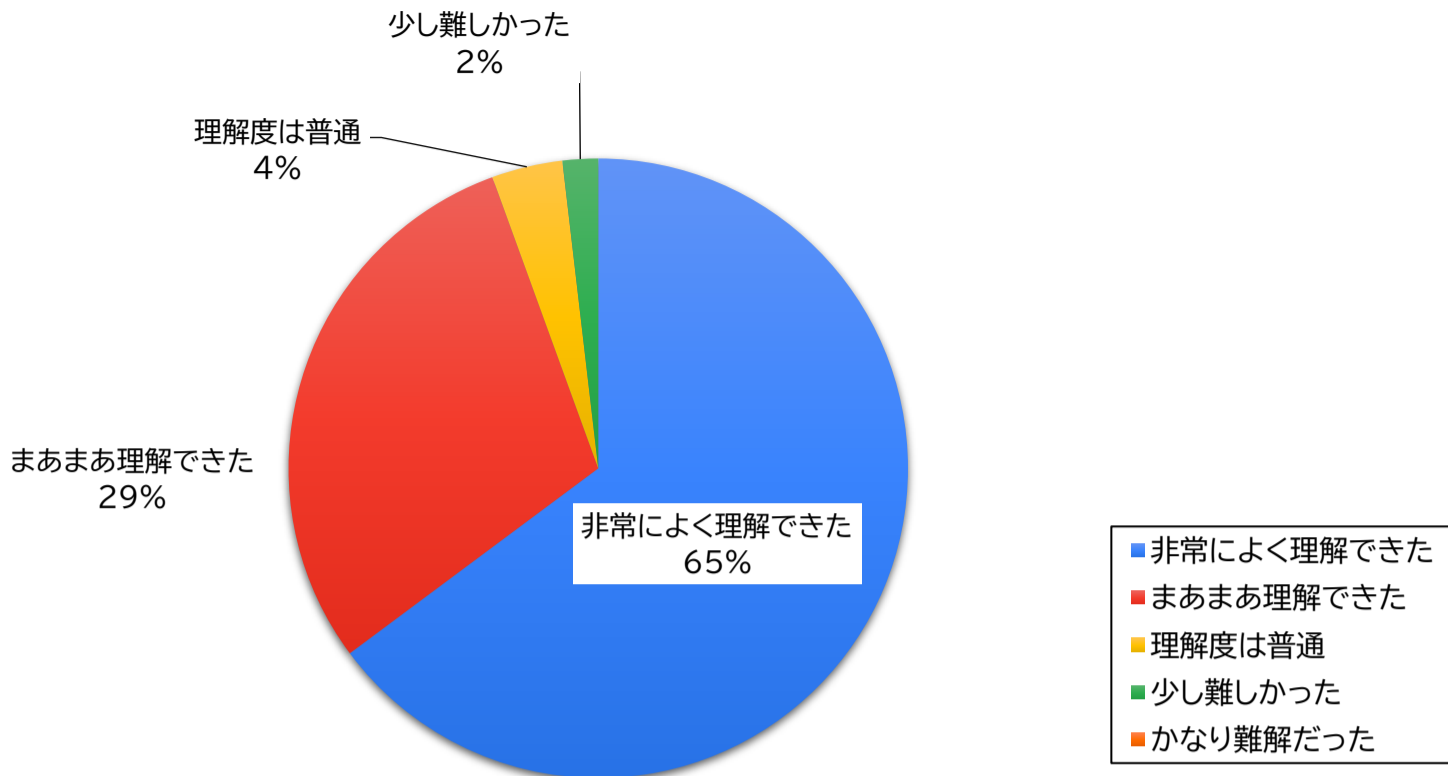
① 坊 英哲(消費者庁 食品表示企画課 衛生調査官)『令和5年度食品表示懇談会について』



最新の情報を盛り込んでご説明頂けて良かったです。
今回のように一度で話してもらえるとわかりやすいので、YouTubeなどでの情報発信期待しています。
消費者庁で検討されている課題と進捗状況をよく理解できました。
もう少し長い時間のご説明を頂きたかったです。非常に勉強になりました。
食品表示の今後どう変わっていくかの方向性がよく理解できた。
食品表示について消費者への啓蒙も大切なことだが、そもそも事業者側が食品表示のルールを理解できておらず、分かりやすい表示ルールにすることや、分かりやすい説明等が必要と感じました。ルールを理解できない事業者は食品を製造販売してはいけないと言ってしまうかもしれませんが、実態としては地方の中小事業者等には、力量を備えることは難しいのだと思います。道の駅などの地方の製造販売品や、6次産業化といったカテゴリーが特に食品表示法との乖離が多いのが現状と推察されます。一度、実態調査を行い、実状を正確に把握することが必要と感じました。
直近の変更点について理解できました。今後食品表示懇談会の動向を注視していきたいと思えます。現地のスクリーン画面では、文字が小さくて読みにくかったです。
監督官庁として適切に運営されていると思う
今後の表示の方針をお聞きでき有意義でした。
食品表示のルールの変更についての周知は必要だと思います。
が、それだけではなく、消費者に食品表示の内容を正しく理解していただかなければなりません。それには、食品リスクの理解が不可欠です。リスクの役割も大きいですし、食品のリスクの理解が重要であることを多くの方に認識していただきたいと思えます。
全体がやや駆け足で、理解が付いていけない部分もあったが、これらの改正経緯などはもあつた認識されていることが前提の可能性があり、短時間での講演でもあつたので止むを得ない。資料は情報が詰まっており、勉強させていただきます。
国としてまだ方向が定まっていないうす。話しづらそうで気の毒だった
貴重な三連休にご講演頂きありがとうございました。
多くの情報が盛り込まれていて、最終的にどのようなものを作り上げていこうとしているのか(これから決めるということも含めて)わかりにくかった。時間の制約もあるが、これまでの経過と今後の話がごちゃごちゃしていて、森田さんの話を聞いてようやく理解ができた。
今年度の取りまとめ、次年度以降の検討内容に注目していきます。
食品表示の持つ意義や必要性について一般消費者への啓蒙を積極的に行ってほしい。一般の消費者では品名と商品名の違いも分かっていないことが多い。
早口でしたので、聞き逃しがありました。内容は懇談会の内容や主旨がわかり、極めて有意義でした。海外の情報を見ている点がいいと思います。最適の表示に向けての葛藤がよくわかりました。
表示面積が商品によって制限され、情報が得られない現状。テクノロジーによって改善されるとの見解でアレルギー疾患や化学物質過敏症などで悩まされている方へ欲しい情報が開示されることを期待します。
論旨が明快で大変分かり易かった
消費者庁の動きがよく分かった。
表示の現状と課題、方向性についてよくわかりました。
表示の法制度はとても難しく消費者の知識が追いついていない気がしている 実務的につながる表示の見方を学校教育にて実施してほしい また、表示のデジタルツール活用については引き続き検討を続けて欲しい
食品表示関連行政の動きがまとめられて、わかりやすかったです。
個別品目ごとの表示ルールに関して見直すべき時期であると強く感じました。
このような個別ルールを整理していくと、消費者が食品表示を理解しやすくなる、デジタルツールの活用や国際的な整合性などの取り組みを推進させるなど様々な効果が得られるのではないかと感じました。
食品表示制度の制定の流れと背景が判りやすい説明で理解出来ました。従来からのバラバラの知識を包括的に理解することが出来ました
時系列での食品表示基準等の主な改正を見て短期間に三つの法律が一つに成ったり、景品法や栄養成分表義務化など沢山法が出来たなぜや経緯がしれたがどんどん簡潔化(見易く)なっているのか?
情報量が多く、全体を理解するのに苦労しました。
食品衛生基準行政が厚労から消費者庁に移管されるお話しは2月時点のものでしたが、「何も変わらない」ことを強調されているように感じました。消費者庁に移管されたことによってメリットがあるはずなので、そのことをもう少しお聞きしたかったです。

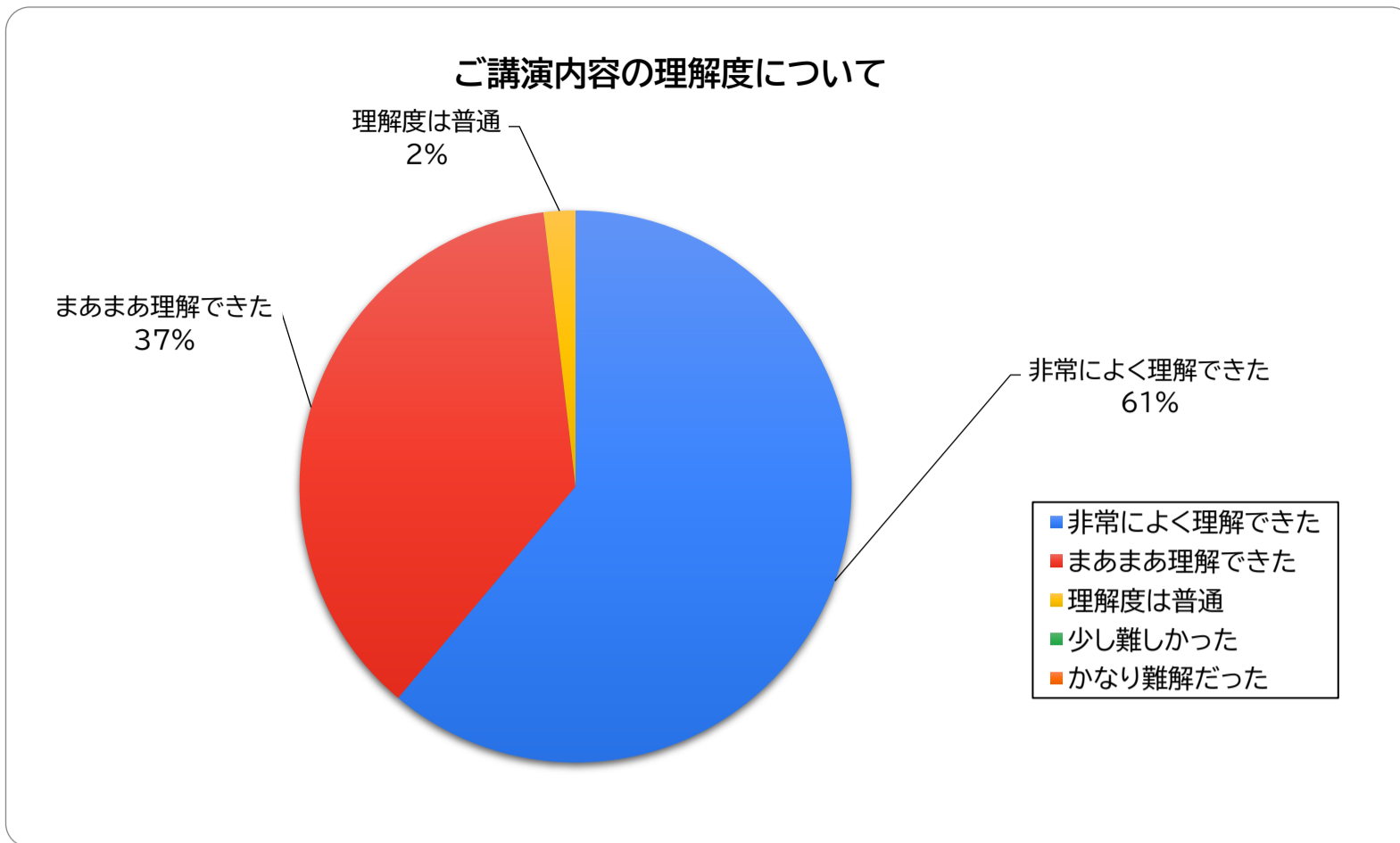
② 森田 満樹((一社)Food Communication Compass 代表)『消費者からみた食品表示』

ご講演内容の理解度について



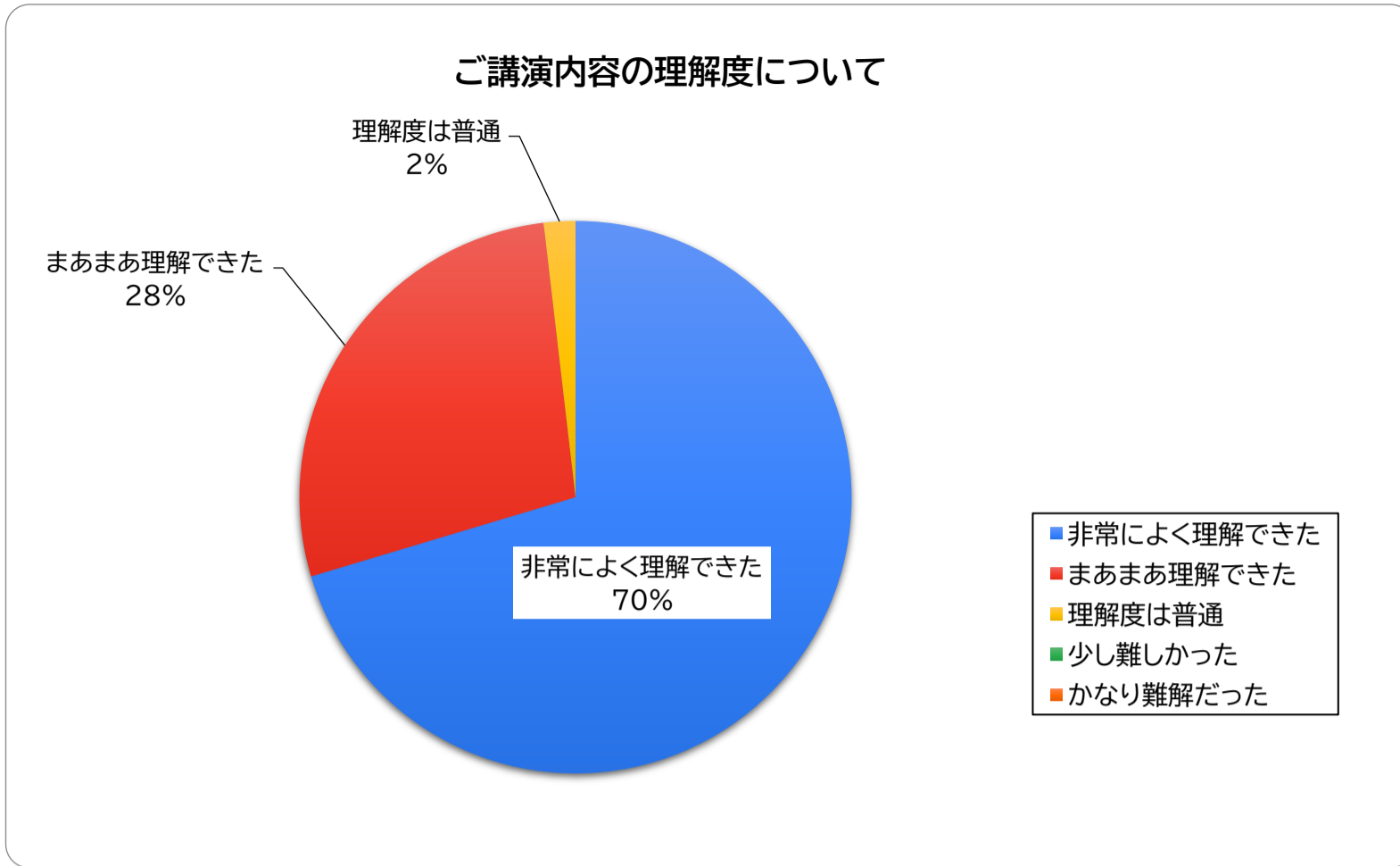
経緯についてあまり深く考えたことがなかったので、改めて表示の目的や意義を認識することができました。
栄養成分表示のご説明をきいて、あらためて、何のための表示なのかをあらためて考える機会になりました。
食品表示の考え方を背景含めてのご説明はとて分かりやすく理解できました。
消費者も表示が理解できていなかったり、混乱しているところは同感です。
直近の法律変更に、消費者の理解が追い付かないことを改めて感じました。
中小の事業者と消費者への普及啓発の必要性を感じました。
消費者にとって分かりやすい表示とはどのようなものなのか、事業者としてもとても悩ましく感じております。事業者としてできることは何か、考えていきたいと思えます。
生協のチョコバウムクーヘンの例、外袋開封後は冷蔵保存の旨を、外袋の表裏両方に分かりやすく記載するという例は、大変良いと思いました。
消費者への情報の周知が重要と共感しました。
消費者、事業者および行政との連携、相互理解にご尽力いただいていることがよく分かりました。理解しやすいご説明でした。一言に食品表示と言っても、奥が深いですし、広い専門的知識が必要なので、消費者に分かりやすくご説明していただける森田さんのような方は必要なのだと強く思いました。
食品表示の基本的な在り方について同感
いつも解りやすい内容の講演でした。今後ともよろしく願いいたします。
消費者視点で発言いただいたことに共感できました。誰のための表示なのか。消費者が活用しきれていないというご意見については納得した。一方で今後の会議の話やこれからの検討事項については情報が多すぎてついていくのがやっとの状況でした。もっとじっくりお話が聞きたかった。
食品表示について、消費者、事業者の双方が目指すべきものが見つければと思いました。また、消費者の理解を促すことが重要であり、興味深く拝聴させていただきました。消費者のリテラシー向上へのアプローチについてのお話も期待しております。
消費者目線で行政への意見具申を積極的に行っていただきたい。
このご講演も早口でした。かねてから言われる。食品表示の理解度が低い現状がよくわかりました。発信の工夫にも限界があるかもしれないので、教えるというより共感する切り口も考えてもいいかも知れません。
食品メーカーは表示に尽力を尽くしているが限界がある。消費者もメーカーに責任を依存するのではなく、正しい情報を入手し、学習する必要があると感じました。
鶏肉のサルモネラやキャンピロバクター汚染率を考えると、生肉のパッケージには取扱注意表示が必要と思うのですが、そのような議論は為されているのでしょうか？
消費者は食品表示のルールを理解しておらず、理解力向上の取り組みが必要。
表示の話はどちらかというと固く敬遠されがちなテーマだと思うのですが、森田さんの話はおそらく一般の方が聞いてもわかりやすかったと思います。スライドの枚数が多く、途中、何度かとばしてしまうことがありましたが、もっと時間をかけてもらえたらよりよかったです。
歴史からの解説はとても分かりやすい 部内での教育でも参考にしたい。また、表示から企業姿勢を読み解いているところがとても参考になった 企業として姿勢が伝わる表示になれるよう意識していきたい
食品表示に関して知識のある身ですが、一般消費者として食品表示のあるべき姿を考えた場合、やはり、ポイントはわかりやすく、文字は見やすく、内容は手軽に確認できる便利なものだと思います。
食品表示に関し、消費者の知る権利と、理解しやすい制度とのバランスはどのように取るべきなのか、非常に悩ましく感じました。
食品表示の役割と使命を消費者の視点で説明いただき私の従来の認識を客観的かつ判りやすい説明で整理出来ました。事業者側のインフォーマティブ視点になりがちな考えを改めて進化することが出来ました。
食品表示で、業務や任意表示についてだけが情報源で大事(安全に食するための情報)消費者がどこまで理解しているか興味を持っているか、そして事業者は消費者の何十倍の知識や情報を貯えて無ければならないですね
表示制度の難しさが良くわかりました。
明快なお話でとても良かったです。ありがとうございました。SDGsをひとつの例として食品表示を取り巻く環境の変化について触れられていました。私自身はSDGsを主語にしてその推進を考えると、食品表示は大きな転換が必要なのではないかと感じています。
森田先生は消費者の視点の重要性や普及啓発の必要をお話されていましたが、SDGsの視点から考える食品表示の未来像などのお話しも聞けたらいいなと勝手ながら思いました。

③ 山田 満里(キューピー株式会社 品質保証本部 表示規格部 部長)『キューピーの食品表示の取組み』



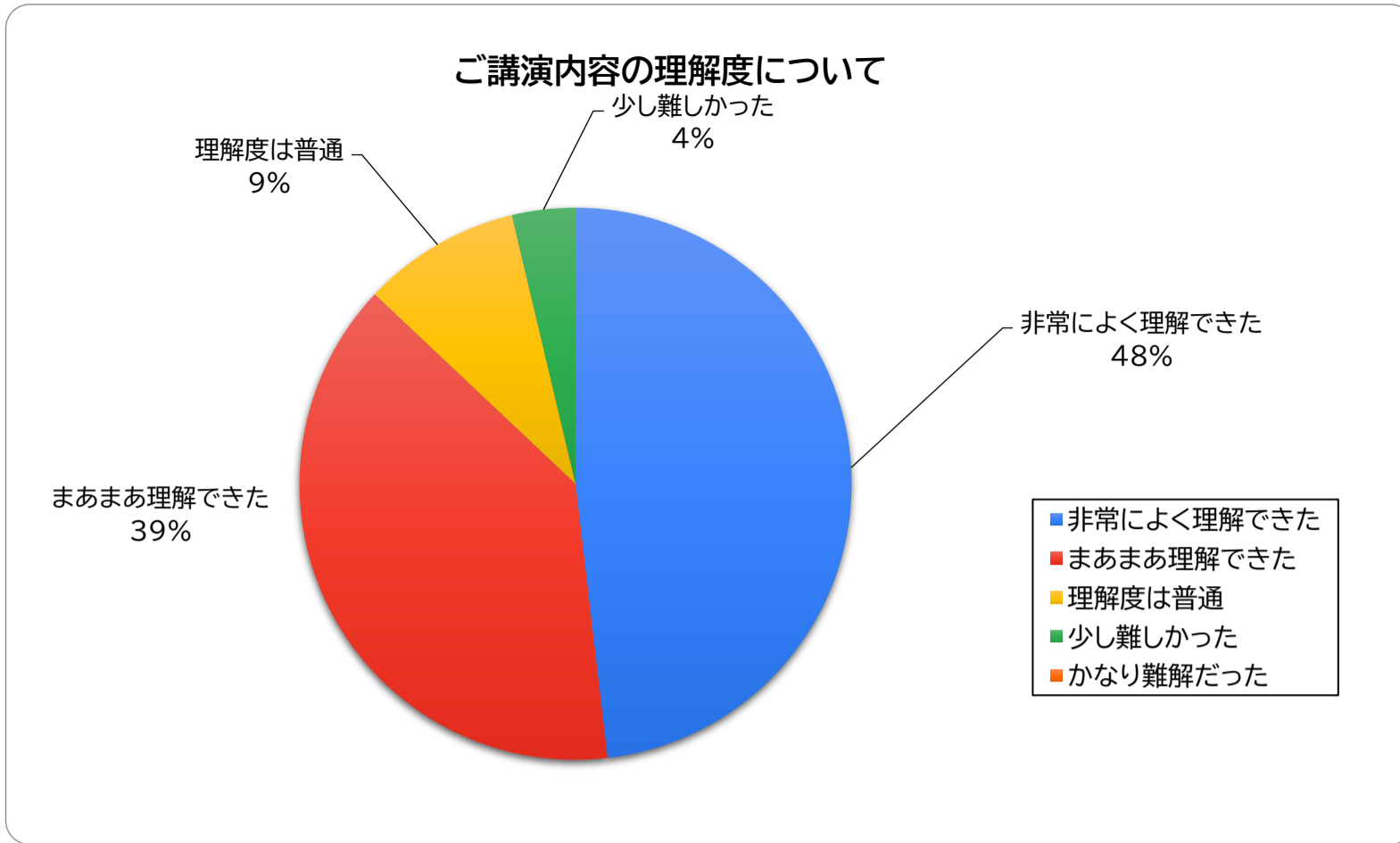
せつかく表示されていても、消費者は思っているよりも見ていないのだと、消費者教育の必要性を感じました。
ご説明いただいた表示について取り組まれていることは食品をつくる人の参考になると思います。
企業の食品表示の体制について理解でき非常に参考になりました。
どうしても法律、製造者立場で考えてしまうところがあったので、消費者目線での表示の改善については参考になった。
消費者・従業員への教育や情報提供方法について、非常に参考になりました。参考にさせていただきます。
食品表示に関する社内の取組みやお客様とのコミュニケーション事例など、大変参考になりました。
会社の品質管理に対する姿勢が理解できた
マヨネーズの場合、卵の殺菌は低温で行うので、アレルギー性が残るという話は、聞いておいて良かったです。
事業者様の努力を感じました。
QPさんの取組みについて、実践的な内容で参考になった。教育の難しさを共有できた。
食品表示をサポートするツールがあることを知りました
さすがにQPさんですね！
製造者としての表示管理のご苦労が良くわかりました。表示作成にあたって事業者がどれだけ誠実に日々の管理をしているのかについてもっと知ってもらいたいと思いました。
キューピー株式会社の誠実な取組みを理解することができました。社内教育の大切さ、実務に即した教育資料が必要なことがわかりました。もう少しお時間をいただき、教育資料の具体例を確認できればと思います。なお、ベビーフードにおいて、不使用表示があるとのことでしたが、消費者のリテラシー向上も含めて、安全であるとの原料管理・製造技術をアピールして頂ければと思います。
見やすい、わかりやすい表示を消費者目線をお願いします。
様々なコミュニケーションのシステムと人材育成方針や表示イベントが興味深かったです。それでも、消費者理解に限界があるので、品質のつくること自体に共感を持ってもらえるような工夫がもう少し必要とも思いました。裏舞台のモデルケースもいいかも。
知名度のある企業。お客様向けイベントで原材料表示を読み解く、賞味期限と商機期限の違いなどの知識を得られるなど、学習できる施設があることは素晴らしい。
食品大手の取組みがよく分かった。課題は中小事業者の食品表示ルールの理解力の向上。
社内での取組みがよくわかりました。
知識向上のとりくみ、現場担当者までの理解が必要という取組みはとても参考になった
マヨネーズの原材料である、殺菌卵のアレルギー注意喚起の内容は興味深いもので、未熟の卵はアレルギーを発症させやすいメッセージを消費者に伝えることはとても意味のあることだと思います。
今後の実務に倣って活用させていただきたいと思っております。
キューピー様の具体的な取組みを詳しくご紹介いただき、非常に参考になると共に刺激になりました。ありがとうございました。
全社的に表示を間違えない体制が確立されバックボーンとなる品質保証の時代変化に対応してアップデートする社内体制にキューピー製品の信頼が一層高まりました
会社内での意識知識勉強会は特に食品表示作成、調査する者には、非常に心強いと思いました。
キューピーさんの真摯な取組みがよくわかりました。
社内教育やヒューマンエラーを無くすためのIT技術の活用など、キューピーさんの事業への取組みが分かってよかったです。

④ 齊藤 俊二 (株セブン-イレブン・ジャパン QC部 総括マネージャー)『セブン-イレブンの食品表示の取組み』



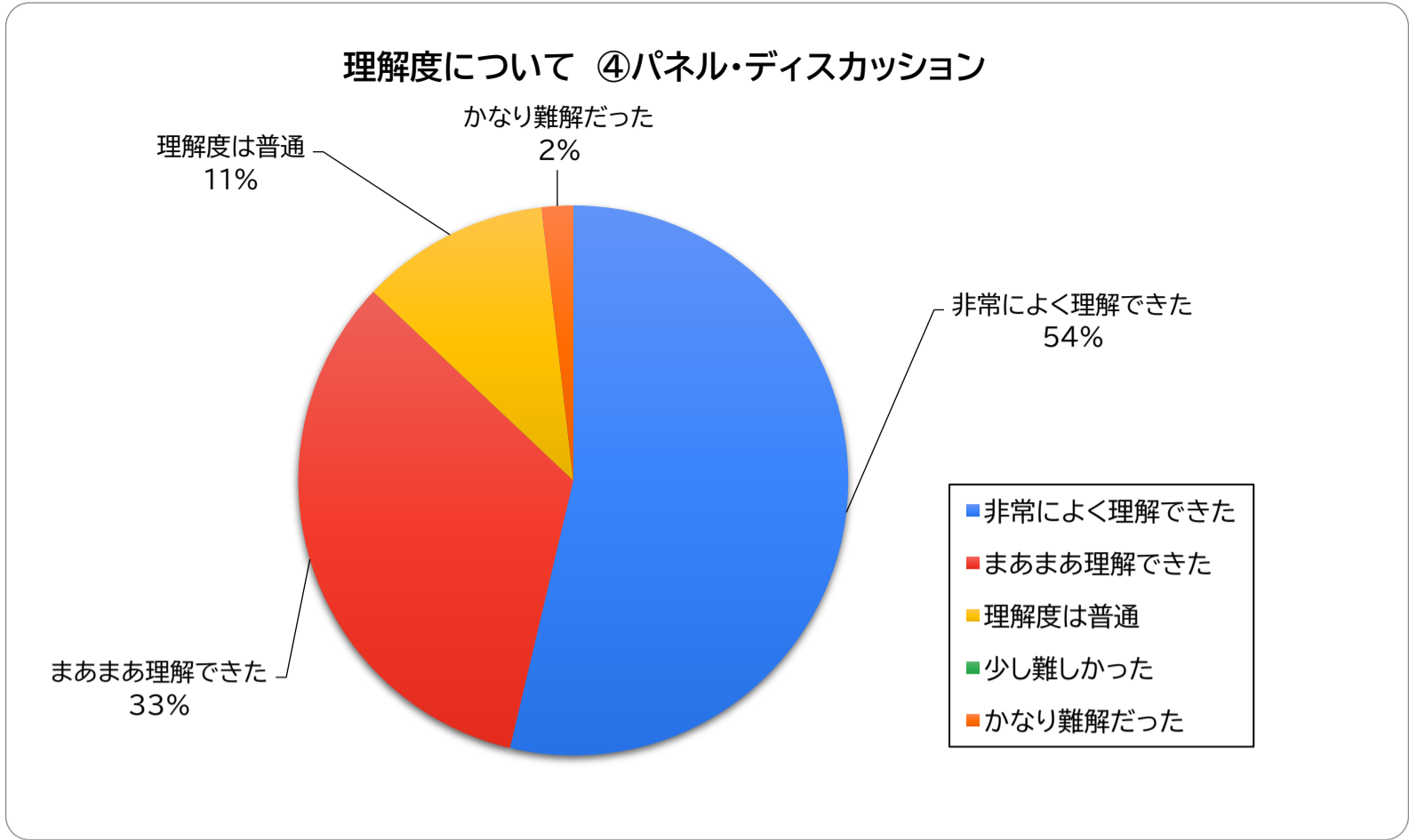
なかなか話しにくいと思いますが、実際の事故事例を紹介して頂き、イメージしやすく、また、表示の重要性についても認識することができました。
実情や実例を交えてもらい、わかりやすく理解できました。
お取組みのご説明をきいて、お店にならんでいる食品の表示について参考になりました。
流通のご苦労や時代に合わせたの方針変更など非常に参考になりました
取組み内容もとても共感でき、学ぶことがとても多かったです。
実際に起こった事故の事例などもご紹介いただき大変参考になりました。年間に販売される商品は相当な数があり、高い精度での表示作成・確認業務は大変なことだろうと想像いたしました。
膨大な食品を管理する苦労は想像に難くないと思った
「クルミが入ってるとは思わなかった」といった例もあるので、食物アレルギーのある人は、原材料名をきちんと見ないといけないと改めて思いました。材料を変更したら、パッケージも変えないと「いつもと同じ商品」と思い込む場合があるので、パッケージを変えるべきという話も、非常に大事と思いました。
30パーセントのミスについて共感しています。食品表示のルールが細かくわかりにくくなるほど、小規事業者のミスは増えているのが現状だと実感しています。
社内での事例紹介もいただき大変参考になった。皆で共有して関係者皆が底上げできるとよいと思いました。
ナショナルブランド以外の仕入れ事業者に、表示ミスが3割もあるということに驚きました
表示不適の3割の事例をもっと聞きたかったです。
食品添加物の無添加不使用ガイドラインへの対応の話聞いて、生協と全く同じだなあと親近感を感じました。食品添加物や農薬に対する嫌悪感を払しょくするためにはまずは組織内での学習が必要だと強く感じているところです。そのあたりの情報がいただけると嬉しいです。機会があれば、組織内のリスクコミュニケーションみたいなテーマを取り上げていただけたらと思います。
表示の失敗例などを示していただき、苦悩している状況がよくわかりました。日本の食を支えるという意味では、全体の底上げが必要ということがよく理解できました。特に、中小企業のレベルアップは、大きな課題であると認識しました。
栄養成分表示で商品の包装量が1個や一本、一切れで栄養成分表示が100g当たりとなっている場合はどのくらい食べればよいかわからない。検討してほしい。
消費者向けの工夫も興味深いです。こういった工夫に対しても消費者は興味を持つのでは？また、小規模の製造工場は手が足りません。大手企業の援助が必要と思います。
商品のアイテム数が多く、改廃が激しい状況で、アレルギー物質の表示欠落、栄養成分表示の誤りなど、確認する項目が多く業務の大変さを感じました。特にアレルギー表示の欠落は、アレルギー疾患を患う方にとって致命的なこと。重大事故を防ぐために、新商品の開発に多大な努力を感じました。栄養表示などが確認できる空中ディスプレイ、是非実現してもらいたいです。
コンビニの消費者への食品表示の伝え方がよく分かった。
話がとてもストレートでよかったです。中小規模の事業者における表示への対応に課題があることにはまったく同感です。
表示は専門的な知識が必要なので 引き続きレベルアップを図っていきたいと思います
様々なスーパーや、物産展を訪れる際に、わたくしも表示を見るのが好きですが、日本国内産のものでも、輸入品でも多くの商品の表示ミスに気付くことがあります。それにしても、セブン-イレブンの現場で3割ぐらいのミスが見つかるのは驚きました。わたくしの場合、自ら他人が作成したものを確認したり、自分で作成したりしていますが、ヒューマンエラーを除けば、ほとんど法令基準への理解が足りなかったり、基礎情報にミスがあったりする場合があります。勉強になりました。
無添加・不使用の訴求から大きく舵を切られ、様々な取組みを推進されていることを実感しました。普段の生活で、セブン-イレブン様の店員は他チェーンと比べきちんと教育されていると感じることが多く、店舗の従業員教育の取組みについても伺ってみたいと感じました。
販売する調達商品、製造製品それぞれの表示および商品内容について組織的なきめの細かい対応と担当者教育と表示ミスの再発防止の取組み注力している事さす
食品表示法が、有るからこそ安心してサラダやフレッシュ製品が可能なのかもですね。持論に過ぎませんが、アレルギー製品製造過程(オペレーション)トレサビリティでの品質劣化度やその防止策、異物混入防止のための義務表示ができるのでは？
刺激的な事例の紹介がとても参考になりました。
表示ミスの事例紹介をされた後に「(表示ミスを起こした)食品事業者は、食品表示を(正しく)認知していない、その問題を解決する必要があると述べておられました。流通企業さんとしての自覚や覚悟を感じました。貴重なお話しありがとうございました。

⑤ 天明 英之 (食品表示活用研究会 会長)『食品表示は消費者と食品事業者をつなぐ信頼のきずな』



食品表示検定の存在は知っていましたが、啓発活動をこんなにもされていることを知らなかったもので、興味を持ちました。
研究会でお取り組みされていることについて理解しました。お取り組みが広がるとよいと思います。
食品表示検定上級者の会について理解できました。
以前、食品表示活用研究会に参加したことがあります。その時よりも人数も増え、活動も進化していると感じました。消費者への教育もされていて、今後の活動に期待が膨らみました。
表示を見ない人が多いと指摘されたのはさもありなんと思う。見なくともアンラセンが担保されている事が大事と思う。
食品表示の出前講座を受ける団体が増えると良いです。
団体の目的を理解できた。食品表示を必要とする人たちへの活動を知ることができた。
食品表示について消費者への普及活動に期待
食品表示検定の裾野がだいぶ広がっているようですね！検定を受けなければいけないような気持ちになってしまいますね！
消費者を対象とする表示学習会、ワークショップの内容に興味がありました。食品表示の話は法律の内容に偏りがちなのでどうも消費者受けが良くないようです。何か良い手法があればご紹介いただきたいと思いました。
食品表示検定については知っていたが、食品表示活用研究会の活動については存じておらず、興味深く拝聴させていただきました。活動は、食品表示のプロの育成と消費者啓発が両輪であるとおもいました。表示を行う事業者、表示を読み解く消費者理解がそれぞれ必要という事が理解できました。消費者啓発活動については、機会を設けて参加したいと思います。よろしく、お願いします。
一般消費者が表示検定を積極的に受けるようになってほしい。
こういう活動があることについて、興味深く聴講いたしました。表示はシニアでも従事できる仕事と思います。今後の活躍を祈念いたします。
表示についての学習会に関心があります。機会があれば是非参加し学びたいと思いました。
表示検定に興味があったので、とても参考になりました。
食品表示に関する理解レベルは企業規模によりとても差がある 地方の商品でも急に注目されたりなので全体のレベルアップにつながるとよいのではと考える
とても有意義なことをされていると感銘を受けました。
弊社のメンバーも研究会に参加させていただき、貴重な交流や情報収集の場として活用させていただいています。
食品表示は商品開発、品質保証部門の担当になりがちですが、組織的に取り組む必要があります特に中小零細企業にとって協会が啓蒙とコンサルティングの役割を演ずる事を期待します
正しい表示を求めている消費者と問題事例に対して探求し、研究、解決させ法律が生まれこちらにも認識し、理解そして定着させる。そのやり取りそして安全な食品を提供してお客様が納得してこそ、その会社と商品への信用があって安心して口に出来る。
業界のレベルを底上げしていく大切な取り組みだと感じました。(私は初学者なので存じておりませんでした)
こんなに詳しく活動のお話を聞けるとは思っていませんでした。とても貴重な機会だったと思います。3つの部会の活動について、とても興味深く拝聴しました。ありがとうございました。

⑥パネル・ディスカッション『消費者の安全・安心につながる食品表示とは』



表示面積と見やすさの間で、事業者の方がこんなにも苦労されているのだと、初めて知りました。
食品表示教育のYoutubeについて話題になりましたが、既にご存知かもしれませんが、東京都が「食品衛生の窓」に事業者向けの動画を公開されているので、活用できると思われます。
質問にあったように本日のパネリストや参加者と一般消費者で表示への意識の大きなギャップがあることをもっと理解し、やりすぎないように気をつけたいと思いま
食品の表示を見て買う人と表示をつくる人の意見交換をしていくことは大切であると思いました。
特にな
森田様がお話なさった「消費者にとっては表示と安全は一体」ということは、本当にそうだと思います。
食品表示のルールの変更についての周知は必要だと思います。
が、それだけではなく、消費者に食品表示の内容を正しく理解していただかなければなりません。それには、食品リスクの理解が不可欠です。リスクの役割も大きいで
すし、食品のリスクの理解が重要であることを多くの方に認識していただきたいと思ひます。それがあってこそ、食品表示が正しいリスクのツールになると思ひてい
パネルディスカッションの時間が約1時間あり、テーマを掘り下げるにはよい時間設定だった。講演者や会場との対話もしやすい環境で大変よかった。
いつもこの時間が楽しみです。さまざまな立場の方々のお話を聞きながら自分の意見や理解を整理できる貴重な時間です。これからも楽しみにしています。
宗林先生のコーディネートで、緊張感はあるもののざっくばらんな意見交換が交わされました。表示の任意、義務の違いや重み、消費者と言っても様々であり、どういっ
た方にどこまでの理解を促すのか、安全情報と安心情報の区別もしながら整理が必要と思われました。表示懇談会で、今回のパネルディスカッションのような議論をす
べきと感じました。様々なご意見を拝聴することができました。
パネリスト同士の意見交換の場面もあったように思う。参加者全体を巻き込むようなディスカッションができるとよいと思う
最後の話題で表示の優先項目についてのQ&Aは興味深いです。技術的な限界が近づく中、海外の情報も入れて、合理性の高い表示を(軟体動物や棘皮動物は気持ち
悪いですが、エビカニは甲殻類でいいと思ひます。アミとかシャコもあるし)。消費期限、保存方法、アレルギー表示を全面に。全員がすべてを理解するのは困難だと思
ひます。
大手企業で扱われる商品も、中小企業が支えているので、規格変更など多く発生し、安定した表示が難しいことが、消費者に伝わらないと思ひれます。
デジタル表示が実現すれば、表示は最低限(メーカーが購買意欲をそそるパッケージデザイン)で、栄養成分やアレルギー情報など、必要な人に情報が得られるのはいい
と思ひます。が、購入時に情報の確認で時間がかかるようでは、まとめ買いをする主婦には時間がかかりどうかと思ひます。
表示だけでなく、食品の知識と合わせることが必要ですね。表示は「訴求」=商品を売るという視点につながってしまうので難しいなと感じました
食品表示の取り組み事業者・行政・専門家のそれぞれの視点からの討論参考になりました。
デジタル可やYouTubeや、専門本や
今後は楽しみです。コーデックスとの正誤性関連も又注目してます。
それぞれの立場から食品表示の今後の方向性が聞くことができたのがよかった
もう少し1つ1つの話題を深く掘って議論いただいてもよかったのではないかとと思ひました。
山田先生が「いつの何の情報か伝えるのが難しい」と話されていました。テクノロジーには様々な形があると思ひますが、山田先生が言われたことは、私も常々感じて
おります。アレルギーの人の立場からすると、特に重要なテーマです。
後半「ルールの普及・啓発」が話題になりました。eラーニングはひとつの解決手法かも知れませんが、やはり「コミュニケーター」のような存在が必要でその方が浸透力
があるだろうと思ひました。食品表示活用研究会の新たな取り組みが普及するといいなと感じました。
また、リスクコミュニケーターがたくさん生まれてそれぞれが活動するような形も、普及啓発の一助になると思ひました。

⑦ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください

食品表示とリスコミの話題が出ましたが、消費者教育の観点から学校教育(家庭科など)を通じて食品表示とリスコミの観点を取り入れていくことを文科省に検討してほしいと考えます。
表示可能な面積、表示方法と食品を買うときに知りたいことについて、考えるよい企画であると思います。
就職活動における食品業界の興味が湧いた。
進行もよくとても有意義であった。本来であればリアル参加したいが、地方単身赴任でタイミングが難しい中、ハイブリットで参加できることが有難い。
最新の動向や他社の取り組みについて知ることができて良かった。
直近の法律改正は、食品事業者も対応が大変ですが、それ以上に消費者が理解していないと、せつかくの苦勞が報われないので、消費者への教育と、分かりやすい表示を提供していくことが重要だと感じました。
表示制度は複雑であり、事業者も消費者も付いていくのが大変であると改めて思われました。行政も、時代に即して制度を見直さなければならない事情はあるものの、消費者に正確な情報が届かなければ意味が無く、それぞれの努力がうまくかみ合うことはできないものか、非常に悩ましく感じます。
会場がキューピーが寄贈したことを初めて知りました。
森田様の上記のお話を基に、改めて、学校教育で、安全性も表示の基本もきちんと教えられると良いと思いました。私自身は小学校の教員免許取得用家庭科の講座を持つので、伝えるのに苦勞しますが、大事な仕事と、これもまた、改めて思います。教員が余裕をもって、食品の安全性や表示を学べるようになると良いですが、現場はますます忙しい様子です。困ったことです。
良く講師陣の人選をされ率直な議論がなされて、お陰様で大変勉強になりました。
行政の講演も交え、全体のバランスがとてもよく、参加者全員がディスカッションできる場だと感じた。
WEBの対応もあり難しいのかもしれませんが、会場の意見を活発にするためには、いちいち席を移動するよりもマイクライナーのほうが良いかもしれません
食品表示は、単純に「表示の問題」だけではなく、そこに至る背景や思想(食品添加物や遺伝子組換えは避けたい)などが絡んでくるので、法律の知識だけでは理解が難しい事。消費者の欲しい情報、知りたいことが以前にもまして多様化していること。事業者は正確な情報を表示しないと「偽装」と言われ、厳密な管理が求められること。いずれも単純に解決できないことを改めて感じました。
今回、初めて対面で参加させていただきました。オンラインでは味わえない空気感がありました。今後も、対面での参加を行いたいと思います。オンラインのみの参加者へは、是非とも対面での参加を試みてはと思いました。
今回の内容は一般消費者にも公開してもよいのでは。HPで希望者に登録してもらって公開してはどうでしょうか。
食品表示の作成の問題、現場での運用の問題を消費者と共有してはどうかと思えます。食品会社や行政の現場で表示(食品安全)に取り組む人々をテーマに漫画やドラマのサブカルチャーにするとか。この切り口はまだないような気がします。教えるより共感するという側面です。
食品表示について、深めることができました。
リモートではやはり質問の意図が十分に伝わらないですね。何とかリアルで参加出来るようにしたいと強く思いました。
各分野の表示の専門家を集めたフォーラムは非常にためになった。消費者の食品表示の理解力向上は必須。各分野の専門家が身近なところから食品表示教育を始めることが大切。
食品表示について消費者と対話する中で、現在の表示ルールが十分に理解されていないのではという想いを抱いています。食に不安を抱いているリスクコミュニケーションの場面でも、学校教育の場面などであらかじめ表示ルールを理解することで不安が軽減されるのではないのでしょうか(という事を質問したかったです。言葉足らずで大変失礼しました)。
よい企画だったと思います。ありがとうございました。
課題は多いですが今後も考えてゆく必要がある内容だと感じています。
講演内容は大変良かったと思うが、参加者の中で問題解決のための関連な意見交換ができると良かったと思う。
消費者にもっと表示を見てもらおう努力という話があったと思いますが、それと合わせて消費者自身ももっと表示について知る努力をしなければならないことがよくわかりました。
表示は 伝えるツールであり、何を伝えたいのか 安全として表示することと商品訴求の意味を持つため 丁寧な発信を継続して実施することが重要だと皆さんの講演を聴講して感じました。ありがとうございました
毎回行政の関係者、企業の品質責任者などを招いてお話しされ、とても勉強になる場であると考えています。これからも参加させていただきます。
食品表示検定中級テキストがここ数年で倍ぐらいの厚さになっています。
法令の整備が進んだ賜物と思いますが、同時に消費者にとっては複雑で分かりにくくなっていることが懸念されます。
皆さまのお話を聞き、現状の食品表示制度の整理・再構築が必要であると強く感じました。
講演、討論を聞かせてもらい参考になりましたが、一般消費者の多くは表示について関係者が腐心していることは知りません、意識するも購入判断の大きな要素ではないのが大方です。原料原産地・添加物への十分な知識のない意識の高いといわれるバイアスのかかった人達にはリスコミが必要です。無添加不使用ガイドラインができた後の事業者の表示に変化がでていますが、最新状況について消費者庁から報告が欲しかったです
企業側の課題(悩み)は扱う食品分類が異なった場合にも共通する部分が多いと感じました。
消費者のための食品表示への取り組みが、非常にわかりやすく理解を深めることができました。
食品表示の最新情報やこれまでの流れなどを学ぶことができた。
栄養成分表示担当者として、事業者からの問い合わせが多いが、消費者(市民)への周知がもっと必要であり、こうやって消費者の安全を守るための表示が進んでも、消費者が活用できる力をつける必要があると感じた。情報発信が必要だと感じている。
表示というのは制度も複雑ですが、それぞれの立場で受け取り方が異なることがより一層複雑にしているように感じました。現状ベースで進めるよりはバックキャスト的な発想でロードマップ作って制度を整備していくようなことも考えてよいのでは、と思いました。
パネルディスカッションの司会の方がとても良いなと思いました。
食品表示に関しては、様々な課題があり、多くのお話を伺うことができ参考になりました



**⑧ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？**

海外での新規食品の状況、動向
食品衛生法の食品の規格基準の課題と見直し
アレルギー 遺伝子組み換え ゲノム編集 PFAS リスクに関わる社内体制の在り方
健康食品分野、食品添加物、残留有害物質、異物など
包材のポジティブリスト制度をテーマにしたフォーラムを希望します。
専門家や企業からの話だけでなく、消費者の声も聞いてみたいです。
DX、AIを積極的に採用していくべきでしょう
機能性表示食品、トクホ、いわゆる健康食品などの安全性
フードテックについて海外ではすでに商品化されたものもあると聞いています。日本での開発状況や海外の消費者の反応など知りたいと思います。
リスクアナリシスにおいて、リスクコミュニケーションがうまくいっていないように思います。解決するには、消費者のリテラシー向上が不可欠ですが、どこに問題や課題があるのか、非常に興味があります。
培養肉のリスク
諸外国の情報も面白いかも、と思いました。
サプリメントの危険性
消費者とのコミュニケーション手段について。SNS等でフェイクニュースがあふれており、消費者はセンセーショナルなフェイクニュースの方を信じている。正しい情報をきちんと届ける手段について学びたい。
食育が話題になっている現在、どんな方が食育を行っているか、食育の現場はどのようになっているかが気になっています。このフォーラムへの参加者は消費者団体の方、行政の方、品質保証関連の方がほとんどで、食育に携わっている行政の関係者、学校の教育者などのお話も聞きたいです。
PFASなどの化学物質、カスタマーハラスメント
食生活・食文化、食糧需給・食の安全保障・気候変動の変化動向を見据えた食の安全・安心・リスクコミの今後の方向を示唆するようなテーマ
培養肉や昆虫食といった、新規食品分野に関する消費者の認識(現状)について
栄養分野

**⑨ 消費者の安全・安心につながる食品表示について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください**

消費者教育、啓発がまだまだ不十分で、求められていることなのだと感じました。
サステナビリティ、ウェルビーイング、食料安全保障、食文化の保護なども含めた長期的な視点に立ち、短期的に一部の声の大きな消費者が優先されないように表示ルールを作っていくべきと考えます。
食品を買うときに知りたいこととして表示してほしいこと、表示方法について、意見交換をしていくこと。
まず、消費者教育が必要だと思います。また、健康危害に関わる部分のルールは国としても少し関わって頂きたいと思います。アレルギーの親切表示は各社で違うので患者さんには分かりにくくで統一して欲しいという声を頂きました。これは一企業では出来ないことです。
アレルギーなど、生命にかかわる表示を単純に記載するだけでなくわかりやすくすることの重要性はよく理解でき共感できた。
法規制を遵守することはもちろん、法律に縛られない表示でも消費者がわかりやすく、商品を選択しやすい表示を心がける必要があると感じました。
法律遵守は必須ですが、それ以上にいかに分かりやすく、必要な情報を盛り込むかが課題だと思います。特に命に関わるという点で、アレルギー表示は重要ですが、28品目以外のアレルギーの方も一定数いらっしゃるの、原材料名の記載方法に配慮する必要があると思います。
専門外なのでコメントできません
昔ながらの消費者団体にありがちな古い常識に縛られる考え方に基づくのではなく、若い人、今後の社会を見据えて制度設計をしていくべきだと思います。
食品表示のルール、またルールの変更だけの説明では消費者は正しく内容を理解しているとは限りません。これまでも、食品添加物、遺伝子組み換え、トランス脂肪酸等、表示をすることによって安全性についての誤解を生みだしてきました。私自身、消費者から質問をいただければ、その都度、その表示の意味や安全性について説明をしてきましたが、消費者の食品リスクについての正しい理解が不可欠であることを強く感じています。食品のリスクの理解が重要であることを多くの方に認識していただくこと、そのようなリスクコミに取り組むことが必要だと思います。それによって、事業者の多大な努力によって作られる食品表示も意味を成し、消費者と企業をつなぐ架け橋になることが期待されます。
これまで食品安全に関して管理・監視に関わることが中心であったが、これらは消費者のためであることを改めて実感し、消費者への理解の橋渡しがまだまだ必要だと感じた。
食品表示が消費者の選択に資するということを使命とするなら、リアル店舗だけでなくバーチャルの世界も対応が必要、食品表示法の建付けから外れるということであれば、景表法も含めて現行法の見直しも検討すべきと考える
事業者の立場としては、法の正しい理解と表示制度の遵守。消費者団体の役割としては消費者に対して表示の読み解き方や活用方法、問い合わせなどへの対応になるのかと思います。いずれにしても複雑怪奇な法律を正しく理解することや刻々と変わる表示制度に追い付くだけでも大変な状況で、学習し続けることが大事ということになるのでしょうか。
消費者理解が不足している、と思われる。情報を入手し、知識を深めていくことが必要ですが、消費者目線として、どのように情報を入手すべきなのか、どうすれば理解が深まるのか、が課題と感じました。様々な消費者がいる中で、要望することと、身に付けなければならない知識を区別し、それぞれ勉強していくことが必要と考えます。一般消費者が表示に関心を持つようにメディアにもっと取り上げてもらうような積極的な働きかけはできないのでしょうか。
学校教育の一環入っていますか？また、これまで情報発信が主体でしたが、共感や共有の切り口があるかも知れません。
スマホなどデジタル機器を使えない年代と、使いこなせる年代が混在するので、テクノロジーによる表示が難しいと思われます。使えない層をフォローしながら、必要な詳細表示を閲覧できるようなシステムができることを願います。
食品表示に求めるものは人それぞれです。全方位型オールマイティを目指したのでは受け手の満足度は自ずと低下するのは当然です。同一製品であってもパッケージを変え、それぞれが求める情報が前面に展開する事が出来たら良いですね。
誰にでもわかりやすい統一したルールがあるべき、個別ルールは問題
もっと食べること、"食"に興味を持っていただく活動も必要かもしれません。
事業者、行政、消費者団体など深く理解している者たちだけで激論を交わっていて、消費者は置き去りにされている。消費者に当事者意識を持ってもらうのが最優先なのではないか。
食品表示の意味を、事業者、関連従事者がしっかり理解できるような情報共有、情報交換、交流のできる場を作ったり、行政から食品関連事業者への指導啓発を継続的に行うこと、企業側への人材育成への投資を促すことなどが必須であると思います。SFSSでたくさんの方のお話を聞け、そこで感じたことを周りに共有し、新しい気付きを持たせるなど、常に地味な努力が必要であると思います。
消費者の知る権利と、理解しやすい制度とのバランスのとりに方について、複数の知見を持ち寄ることが必要かと感じました。
商品ラベルには国の安全確認を表現してシンプル表示とする、バイアスのかかった意識高いといわれる人達には二次元コードによるデジタル表示で詳細とリスクコミを併せて発信するのが良いと思います
消費者に誤認を与えず、必要な情報を分かりやすい形で提供することを心がけています。
食品表示は、記載内容の日々の進化が欠かせないと思います。デジタル化の技術革新も取り入れて、世界でも最先端の食品表示を目指していただければと、一消費者としてもとてもありがたいです。
情報発信できる立場であることから、消費者が現状から置いていかれないように表示の活用を伝えていきたい。
消費者の安全・安心につながるという観点であれば、消費者の安全・安心に関してしっかりと具体的に定義づけしてから対応策を検討すべきではないかと感じました。
今回のパネルディスカッションでも、ルールを淡々と説明しても食品表示の普及啓発には充分ではなく、それぞれの「価値として」示されていることの背景まで伝えないと浸透しないというような話題が出ていました。例として遺伝子組み換えが出ていました。リスクコミュニケーターは、科学的事実と不安視されている社会的事象の両方を示しながら、消費者に選択する力を身につけてもらうような知識とよりよいバランス感覚を身につける訓練が必要かと感じました。
消費者に分かりやすい表示にすることはもちろん、それ以前に安全に関わる表示の誤りが無いよう業界全体で取り組んでいくことが必要と感じます

**⑩ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください**

本日は貴重なお話をたくさん聞かせて頂き、ありがとうございました。
運営大変ありがとうございました！
会場に参加した方が発言するときに席を移動しない方法で発言していただくほうがよいと思います。
特になく、リマインドメール含めて素晴らしいと思います。引き続きよろしくお願いします。
ZOOM利用は楽で便利でこれからも活用してください
対面でもオンラインでも参加出来て助かります。
今回初参加しました、大変濃い内容のフォーラムで、講師と参加者が対等にディスカッション・向上できる場だと感じた。行政の一方通行ではなく、行政にも意見を挙げ、事業者・消費者とをつなぐ重要な活動をされていることを知り、今後も勉強させていただきたいと思います。参加させていただきありがとうございました。
タイムリーで良い企画であったと思います。
非常に面白いフォーラムでした。ありがとうございました。
被災ぶりに対面での参加をさせてもらって、やはり緊張感が違いとても良かった。質問者のマイクの位置を増やしてはどうでしょうか。
音響は見直した方がいいと思います。また、質問用マイクが遠いですね。
とても興味ある内容で、勉強になりました。
演者方がもっと伝えたいことがあったのでしょうか、講演の時間が短く、やや端折り気味に感じたことが残念です。
とても充実した内容でした。ありがとうございました。

**⑪ SFSS事務局へのご要望**

とてもよい学習の機会をつくっていただき感謝しています。
貴重なご講演の機会をご用意いただきありがとうございました。大変参考になりました。
今後ともよろしくお願いいたします。
会場の空調が安定しないようでした
SDGsや食品ロスなど目先の課題も大切ですが、パリ協定の遵守や食糧危機への備えを真剣に考えないといけないと思っています。次世代の人たちに未来ある日本を残したいですね！そのためにも、日本の現状と課題を知りたいです。
貴重なご講演、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。
講師(行政・専門家・協会・事業者)の組み合わせ大変良かったです、宗林先生な和やかな進行大変良かったです
視聴が遅くなってしまい申し訳ございませんでした。